

施策マネジメントシート(平成24年度の振り返り、総括)

作成日 平成 25 年 7 月 5 日

基本目標	Ⅲ	交流による魅力と活力にあふれるまち	主管課	名称	観光課
				課長	真庭 敏
施策	21	観光の振興	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
			2 観光資源の有効活用と品質向上	国内観光客	様々な観光資源を安全に安心して楽しむことができる。
			3 観光客満足度の向上	国内観光客	快適に過ごせて、満足できる。
			4 国際観光の推進	外国人観光客	町を訪れ、消費する。
			5		

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				A	宿泊客数	千人	実績値	1,097	1,137	
			目標値		1,100	1,140	1,180	1,220	1,260	1,300
B	入湯客数	千人	実績値	1,229	1,316					
			目標値		1,230	1,279	1,328	1,377	1,426	1,476
C	観光消費額	百万円	実績値	19,951	20,725					
			目標値		20,000	20,800	21,600	22,400	23,200	24,000
D			実績値							
			目標値							
E			実績値							
			目標値							
F			実績値							
			目標値							

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成されているといえるため成果指標とした。
群馬県観光客数・消費額調査による

B) 数値が高まれば町に多くの観光客が訪れているといえるため、成果指標とした。
課税状況調査による
※平成23年度及び24年度の入湯客数については、税務課資料(毎年5月時点)に基づく数値であるため、後で課税状況調査(確定)の数値に修正する必要あり。

C) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成されているといえるため成果指標とした。
群馬県観光客数・消費額調査による

目標値設定の考え方

過去の経年経過からすると、毎年度△1.5%となっているが、平成29年度には平成23年度より20%の増加を目標とする。
参考:群馬県の目標値 → 【(宿泊客数)県目標値:589万人(H21)→650万人(H27)10%増】

平成24年度で「みなかみ町観光振興計画(平成24年度～平成29年度)」を策定した。平成23年度実績をベースに平成29年度での目標値を宿泊客数、日帰り観光客数、観光消費額についてそれぞれ以下のとおり設定した。
＜観光振興計画の目標値＞
○ 宿泊客数 110万人 → 130万人(18%増)
○ 日帰り観光客数 310万人 → 310万人
○ 観光消費額 200億円 → 240億円(20%増)

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	<p>①住民は、地域の良さを知り観光地であることを認識することで、地域をきれいにするとともに、観光客におもてなしの心で接する。</p> <p>②住民は、観光ボランティアなどに参加するなど、町の魅力を積極的に発信する。</p> <p>③観光関係者・事業者同士で連携し、主体的に観光素材の発掘や企画・提案、情報の発信などを行う。</p>	<p>①総合的な観光振興策の企画立案を行う。</p> <p>②施設の維持管理、観光資源の品質を管理する(整備、規制、保護など)。</p> <p>③観光関係団体と連絡・調整を行う。</p> <p>④地域の特性に応じた観光振興への取り組みを育成・支援する。</p>

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<p>①国は、観光分野における緊急経済対策として訪日外国人旅行者の誘致、個人旅行の促進、東アジアからの誘客誘致・ビジネス観光への取り組み強化等、官民協働による魅力ある観光地の再建・強化を掲げている。平成28年までに国内旅行消費額30兆円、訪日外国人旅行者数1,800万人の目標を掲げている。</p> <p>②群馬県では、国際戦略としてインバウンドの取り組みを強化するとともに、温泉・スキー・教育旅行などへの取り組みも強化する。</p> <p>③雪国観光圏では、2014年の北陸新幹線開通による上越新幹線の運行本数の減少の対応策として、雪国ならではの各種事業を展開している。また、「飯山線」、「只見線」、「はくほく線」、「上越線」など在线上を活用した周遊観光ルートの提案、全長280kmのロングトレイルコースの整備に取り組んでいる。</p> <p>④全国各地で教育旅行、エコツーリズムやアウトドアスポーツが実施されるようになってきた。ITの進歩とスマートフォンの保有率が高まっていることから、これらのツールを活用した観光情報の発信を行う必要がある。</p>	<p>①農家は観光産業との連携に期待していると考えられる。観光農園と農家民泊、農業体験など。</p> <p>②DCのような大型観光キャンペーンを継続・展開してほしい。</p> <p>③数日間滞在ができるような仕掛けをして欲しい。</p> <p>④外国人向けの看板や路線バス案内表示など、来訪者に分かりやすい案内システムや表示を整備して欲しい。</p> <p>⑤富裕層を対象としたサービス(宿泊やアクティビティなど)をパッケージを提供できればよい。国際高級リゾート地</p> <p>⑥町内の観光素材を組み合わせたパッケージ旅行の開発と宣伝。</p>

施策	21	観光の振興	主管課	名称 観光課 課長 真庭 敏
----	----	-------	-----	-------------------

	実績比較	背景・要因
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較 <input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	① 日帰り観光客の推移 平成23年度3,098千人に対して平成24年度は3,226千人(前年対比4.1%増)となり、128千人増えた。 ② 宿泊観光客の推移 平成23年度1,097千人に対して平成24年度は1,137千人(前年対比3.6%増)となり、40千人増えた。 ③ 観光消費額の推移 平成23年度19,951,028千円に対して平成24年度は20,725,087千円(前年対比3.9%増)となり、774,059千円増えた。 平成24年度はスキー等の入込客数が、52万7千人(前年対比6.4%増)となり、約3万2千人増えた。谷川岳の登山者数は52,138人(前年対比37.2%増)となり、1万4千人増えた。また、一ノ倉沢の交通規制期間中(7月～10月の127日間)の来訪者数は29,089人(前年対比44%)となり、約9千人増えた。
	② 他団体との比較 <input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	群馬県内の四大温泉地(草津、伊香保(渋川)、四万(中之条)との日帰り観光客数、宿泊観光客数、観光消費額についての比較は以下のとおりである。ただし平成24年度の数値については群馬県が未発表のため、各所在市町村に照会した数値であるため暫定値である。 ① 草津温泉 日帰り観光客数 948,400人 平成23年度実績 981,030人 平成24年度実績 3.4%増 宿泊観光客数 1,738,500人 平成23年度実績 1,784,006人 平成24年度実績 2.6%増 観光消費額 31,893,391千円 平成23年度実績 31,375,664千円 平成24年度実績 1.6%減 ② 伊香保温泉 日帰り観光客数 3,689,100人 平成23年度実績 3,663,268人 平成24年度実績 0.7%減 宿泊観光客数 1,149,800人 平成23年度実績 1,168,295人 平成24年度実績 1.6%増 観光消費額 20,433,739千円 平成23年度実績 26,742,608千円 平成24年度実績 30.9%増 ③ 四万温泉 日帰り観光客数 970,700人 平成23年度実績 620,530人 平成24年度実績 36.1%減 宿泊観光客数 288,300人 平成23年度実績 291,230人 平成24年度実績 1.0%増 観光消費額 4,786,767千円 平成23年度実績 4,635,641千円 平成24年度実績 3.2%減
	③ 目標の達成状況 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	① 宿泊客数 平成24年度目標値1,100千人に対し、平成24年度実績が1,137千人となり、目標値を37千人(3.4%増)上回った。 ② 入湯客数 平成24年度目標値1,230千人に対し、平成24年度実績が1,316千人となり、目標値を86千人(7.0%増)上回った。 ③ 観光消費額 平成24年度目標値20,000百万円に対し、平成24年度実績が20,725百万円となり、目標値を725百万円(3.6%増)上回った。
成果実績に対する総括	①「アフターDC」として群馬県、JR東日本高崎支社と連携した「ググッとぐんま観光キャンペーン」を7月～9月にかけて展開した。主な取り組みは7月初旬の「谷川岳ウィーク」イベントも前年以上に盛り上がり、山開きに合わせた夜行列車の乗車率は83%となった。8月下旬からは「星の鑑賞会」を実施し、全27日間の内21日実施して参加者は5,569人であった。参加者の90%は宿泊者であり、宿泊の増加に繋がっている。観光宣伝については、大阪、名古屋、東京、埼玉、千葉、栃木、長野、新潟の駅やデパート及びイベント会場などで延べ57日間、高速道路のサービスエリアやイベントスペースでスキー・スノーボードのPRを6回実施した。また、都道府県会館での定例記者発表会(2回)で観光情報を発信するとともに、上野駅での「もの・産直市」(7日間)と国立劇場での塩原多助上演に合わせて3日間の物産販売と観光PRを実施した。その他テレビ、ラジオの取材を受入れた結果、平成24年度は特にテレビ露出が多かった。また、「ぐんまちゃん家」で年4回行う「サロンド・G」でみなかみ町の観光情報発信した結果、メディア等の露出増加に繋がった。 ② JR東日本の蒸気機関車D51、C61の運行時に水上駅駅前前で郡内の市町村、商工会及び観光協会と連携して物産・飲食販売、抽選会などの「おもてなし」を7回実施するとともに、女将の会の協力を得て列車内での観光パンフレット配布を9回行った。また、11月15日の上越新幹線開業30周年記念日にはりんご配布を行った。 ③ 観光客の入込みは、東日本大震災前の状況に戻るとともに、外国人旅行者も平成23年度の2,255人が平成24年度では5,493人に回復した。 ④ 教育旅行の受入数は平成24年度は8,068人を受け入れ、延べ宿泊数は6,545人であった。今後は更なる受入内容の充実と受入体制の整備が必要である。 ⑤ 台湾からの教育旅行受け入れについては、平成23年度は2校112人だったものが、平成24年度は10校528人に増加した。また、群馬県が主催した東アジア諸国のメディア招聘を受け入れた結果、みなかみ町が、韓国、台湾、シンガポールなどのテレビ、旅行雑誌等に取り上げられた。 ⑥ 赤沢スキー場は降雪に恵まれるとともに、「赤沢スキー場活性化委員会」の取り組みもあり、入込客数は9,454人で対前年比28%の増、売上額は13,767,490円で前年対比34%の増となった。	

	基本事業名	今後の課題	平成26年度の取り組み方針(案)
今後の課題と取り組み方針(案)	1 観光PRの推進	観光客のニーズ・トレンドに対応した観光PR戦略と町の観光資源の特性を活かした観光PRの演出と手法に重点を置いて展開する必要がある。	従来のPR手法に加えて多言語対応の動画配信専用サイトを本格稼働させる。 町オリジナルサイトとYoutubeの専用チャンネルに町の動画を配信し、アクセス形態を効果測定する。そのデータベース化と次の観光戦略への活用。 スマホ用のオリジナルアプリケーションソフトの本格稼働。利用状況の分析と効果を測定し、誘客や回遊に反映させるための仕組みづくりを行う。
	2 観光資源の有効活用と品質向上	町にある観光資源の活用と楽しませ方を工夫し、ブランド力を高めた誘客を図る必要がある。また、老朽化した観光施設を効率的に維持管理することにより、観光客の安全を確保するとともに満足度を向上させる必要がある。	集客効果や利用頻度の高い観光施設を維持するために費用対効果を考慮した改修等を行う必要がある。計画的に整備するための、観光施設整備計画の策定に着手する。
	3 観光客満足度の向上	観光事業に携わる人の接客能力と資質向上のための機会創出と切っ掛けづくりを行う。 観光客が何を求めて来訪するのか、観光客のニーズを掘り下げ、整理し、観光客の満足度を向上させるための対策が必要である。リピーターを増やすためのニーズや価値観に対応したサービス提供と内容の充実が必要である。	地場産品を含めた観光資源を有効に活用して誘客を図る。季節ごとの魅力を他の異なる要素と組み合わせることによって、更に魅力あるものにする。観光客の満足度測定のために観光市場調査、アンケートの実施。
	4 国際観光の推進	経済発展の著しい東アジアの国々に重点を置いて観光PRを展開する。 外国人観光客が快適に移動でき、また快適に滞在できるような環境整備が必要である。	重点的に展開する国々については、ある程度一定期間継続して交流することによって信頼関係を構築し、それをベースに事業を進展させる必要がある。外国人観光客の受け入れ体制を整備するため、また、みなかみ町を諸外国にPRするため、町、観光協会、インバウンド推進協議会員等の関係者による「(仮)インバウンド推進基本方針」の策定に向けた検討に着手する。